

セント・ルカ産婦人科

LUKE MAGAZINE SUMMER

## ルカ新聞

No.17  
2008.7.

クメールのほほえみ

安息日にイエスが麦畑を通って行かれたとき、弟子たちが麦の穂を摘み、手で揉んで食べた。それを見たファリサイ人らは「なぜ安息日にしてはならないことをするのか。」といった。イエスは「ダビデが空腹だったとき、神の家に入り、ただ祭司のほか食べてはならない供えのパンをとって食べたではないか。人の子は安息日の主である。」

ルカによる福音書6章1の5

安息日は、週に一回の日曜日、この日だけは決して働いてはならず、ただ一日、神に感謝の祈りをささげるだけの日です。ある医学者が、高名な尊敬するユダヤ人の学者に会ったとき、名刺にサインをしてもらおうと頼みただけれど、それすら断わられたと言っていました。このファリサイ人は、安息日が何のためにあるのかわかっておらず、ただ形式だけを重視しています。私たちは、まじめであればあるほど、重要なことを守り、きちんと処理したがりです。それが度を過ぎると、このファリサイ人のように、とうとう形式だけ整えることで満足してしまう傾向になるのです。原理主義です。ところが、イエスの言葉の本質は何か。よく考えると、安息日は人のためにあるはずで、一日中、神に祈ることができるのは、その人のための、大いに恵まれたよい機会です。だから安息日があるのであって、この日は、私たちのために、神様が創ってくださったのです。私たちは、忙しい日々の業務の中で、ふとこれと同じ、「本質は何か」を忘れることがあります。いつもこの本質を考えながら「本当に大切なことは何か」と、自分でその答えを探しながら過ごしたいものです。

柘さ  
榴くろ





## 生殖医療の質向上のために

院長 宇津宮 隆史

今年、私たちのグループJISART（日本生殖補助医療標準化機関）にとって、また、私にとって記念すべき年になりました。現在、日本には体外受精までの生殖医療（不妊治療）を行う施設が600余りあります。JISARTは、5年前、その上位14施設が集まって、日本の生殖医療の質を高める目的で設立されました。今では21施設で構成されています。理事長は広島HARTクリニックの高橋克彦先生です。毎年、JISARTシンポジウムを開催し、みんなで勉強しています。今年のJISARTシンポジウムは6月8日に東京で開かれ、大会長は私が務めます。さて、質を高めるといっても、生殖医療にはほかの疾患の治療と比較して、非常に複雑で多岐に渡った側面とチームワークで成り立っていますから、私たちはいろいろ調査しました。そして参考にしたのがオーストラリアの制度でした。オーストラリアでは生殖医療に保険が適用されています。（この制度は、患者さんの集まりで、サンドラ・デイルという患者さんが中心になって、国会議員一人ひとりに保険適用を訴える手紙を送って実現したそうです。）ただし、条件があります。それは生殖医療技術認定委員会（RTAC）の審査に合格しているクリニックだけ保険が適用されるということです。そこで、私たちは、オーストラリアRTAC委員長サンダース教授に日本に何度も来ていただき、そのRTACの内容を勉強しました。また3ヶ月ごとに東京に集まって会合を重ねました。そして、2005年に、全国12施設がサンダース教授ら3人によって審査を受け、10施設が合格しました。その際、サンダース教授は「今後は日本人だけで審査をするように」といわれました。そこで3年目の更新審査は、日本人のわれわれだけでお互いの施設を審査することになりました。その審査委員長には私が就任しました。そして、

今年の春には、その第1期の認定10施設が審査を受け、6施設が合格、4施設が条件付合格となりました。審査は非常に厳しいものでした。医師部門は医師、ナースはナース、ラボはラボ、受付事務は医師、そして心理部門は心理士、さらに患者部門は患者団体の代表と当院の患者さん数名が審査しました。朝8時から夕方5時まで、昼食時間もお昼を食べながら会議でした。これを乗り切ったことは、私たちスタッフには大きな自信につながり、且つ又、それ以上に努



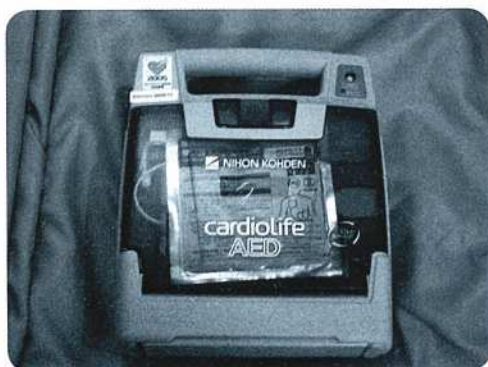


力しなければならないことを肝に銘じております。このような医療機関を同業であるわれわれが他の施設を審査するという事は、ほかの病院組織にはありません。病院機能評価機構はありますが、これは半分公的組織で、専門の診療科の同業者ではありません。なぜこんなにまで厳しい審査をするのか。それはやはり、生殖医療には大きな責任を伴っているからです。われわれには、不妊夫婦に対するだけでなく、未来の子供についても責任があります。また、この生殖医療という分野は、「代理母」や「クローン」などのように、突飛な話題性に富んだ部門でもあり、その反面、「不妊治療」という重い、時には厳しい現実を直視しなければならない部門でもあります。さらに中には、非常に高い妊娠率を誇示したり、わけのわからない治療法を最も効果的だと宣伝したり、果ては有名人が高齢で妊娠できたと話題になったりと、患者さんも私たちも惑わされることが多い部門であるのも事実です。よって、われわれは、本当に責任持って生殖医療を清く正しくまじめに推進するためには、このような厳格な審査が必要であるとの考えに到達したためです。現在21施設がJISARTに参加し、審査を受け、認定されています。おそらくJISARTが今後、日本の、また世界の生殖医療をリードし、未来の子供たちに感謝される施設になるでしょう。

## AED を設置しました！

2008年4月15日に外来の待合室にて、心肺蘇生訓練及びAED使用方法について勉強をしました。

AEDを使わないのが一番ですがもしものとき慌てずに使いこなせるように、訓練をくりかえすことが必要だと実感しました。





# 研究室だより

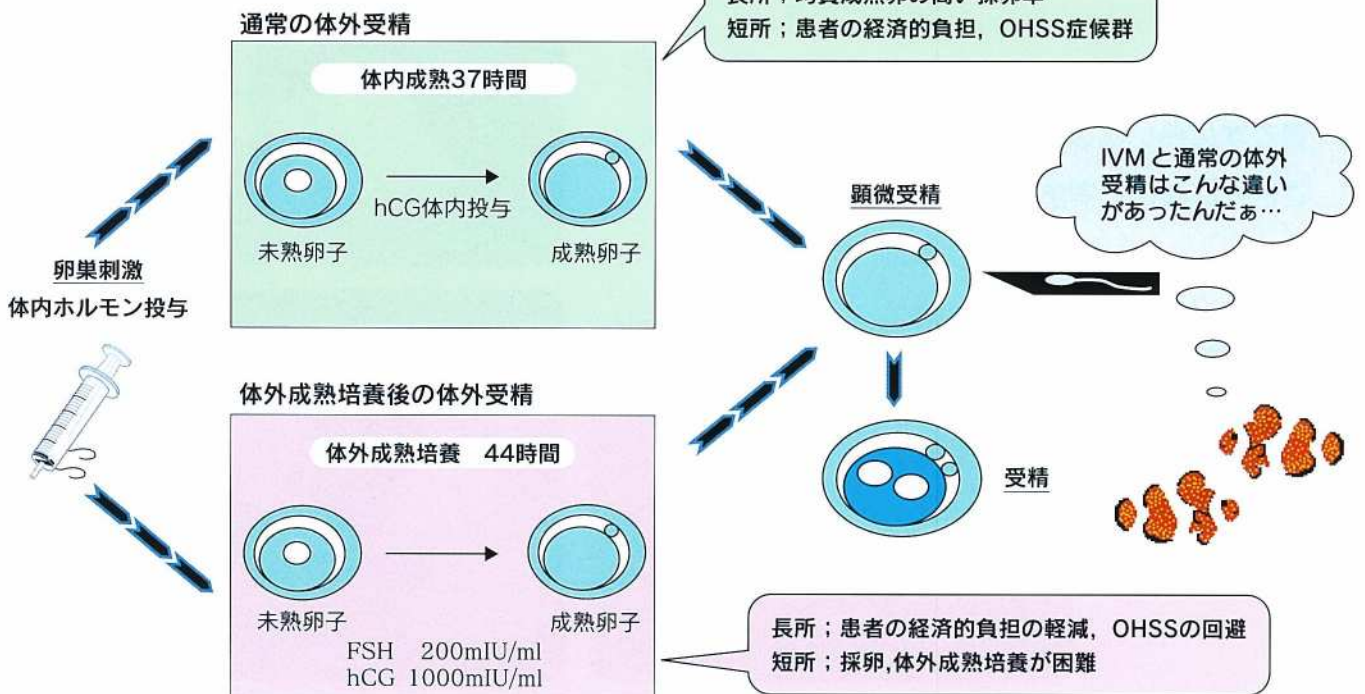
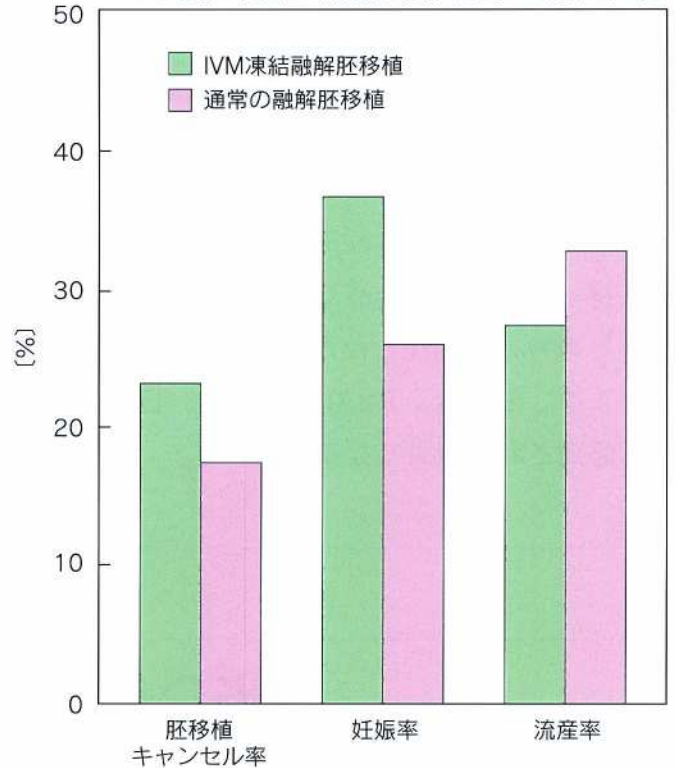
## 体外成熟培養(IVM)について

研究室 佐藤 千賀子

通常の体外受精がhCG(卵子を成熟させる作用を持つ)を投与して体内で卵子を成熟させ成熟卵子を採卵するのに対し、当院で行われている**体外成熟培養(IVM)**は未熟な卵子を採卵し体外で卵子成熟を行います。通常の体外受精であれば、均質成熟卵をたくさん採卵できますが、卵巣刺激に多量のhMGが必要になり、そのため経済的負担が大きく卵巣過剰刺激症候群になりやすくなります。しかし、体外成熟培養では少量の卵巣刺激でよいため経済的負担が少なく卵巣過剰刺激症候群のリスクを減少させることが可能です。一般的には多嚢胞性卵巣の人に適した技術であるとされています。当院では腹腔鏡の際にhMGを3日間投与し、手術日に採卵を行います。成熟培養2日後で成熟した卵子に顕微授精を行い、受精後4~5日で形態良好な胚盤胞期胚に育ったところで凍結保存を行っています。次周期以降で融解胚移植を行います。通常の体外受精での後期胚融解胚移植の成績と比較すると体外成熟培養胚移植周期では胚移植キャンセル率がやや高いものの、妊娠率・流産率はほぼ同等の成績となっています。

なお、この技術は京都大学名誉教授・森崇英先生、広島大学大学院准教授・島田昌之先生の御指導の下、当院で確立されました。

IVM周期と通常の融解胚移植周期の成績の比較





# 看護部だより

## CMI健康調査表による治療期間の検討について

看護部 酒井 操

不妊治療を続けるにあたり、様々な不安を抱えていらっしゃると思います。以前、CMI健康調査表を用いて患者さんの心身の状態と治療期間、妊娠に至った時期などについて調査を行い、第4回日本生殖医療心理カウンセリング学会と、第52回日本生殖医学会学術講演会に於いて発表をさせていただきましたので報告します。

### ※CMI健康調査表とは…Comell medical Index

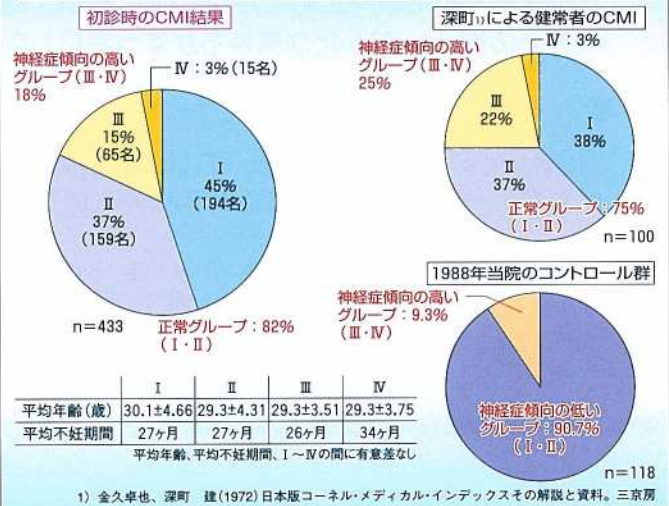
臨床で患者さんの心身の状態を簡単にスクリーニングすることを目的とする質問紙テストで、ニューヨークのコーネル大学のブロードマンらにより創案された。(1944年・1945年)

我国で現在用いられているものは195の質問項目からなり、現在の身体的精神的症状のほか既往歴、家族歴も含まれている。

質問には、「はい・いいえ」で答え、「はい」の項目数を集計・採点しIからIVの領域に分類される。

- I…心理的正常
- II…どちらかといえば心理的正常
- III…どちらかといえば神経症傾向である可能性が高い
- IV…神経症傾向が高い(心身の不調を多く感じている)

グラフ①



グラフ② CMIの各グループ毎の諦めた人と妊娠した人の割合



グラフ⑤ 治療期間の比較(治療を諦めた人・妊娠した人)



「不妊」のみが心身の不調を増大させるのではなく、その人の考え方や物事の捉え方などが影響しているという報告もあります。

初診時に神経症傾向の高い(心身の不調を多く感じている)患者さんは、治療期間が短く妊娠しないうちに治療を諦める割合が高いことがわかりました。また、グループに限らず治療を諦めた患者さんの半数以上が初診から半年以内にやめていることもわかりました。その一方で、妊娠に至った患者さんのうち約90%の方が2年以内に妊娠し卒業していることがわかりました。

治療を中断してしまう「半年」を乗り越え、約2年間治療を続けることができれば妊娠につながる可能性も高くなると考えられ、これらの情報提供とサポートの必要性を感じました。心身の不調や不安を感じている方は遠慮なくご相談下さい。ご協力ありがとうございました。



# 心理相談室より

## ♣️ カウンセリングってどういう時に受ける？

- これからの治療をどうしようかと考えている
- 不安でしょうがない
- 自分を責める気持ちが強い
- イライラや落ち込みなどの感情が強い
- 夫(妻)と治療についての考えが違う
- 人との関係がしっくりいかない
- 考え方や性格を変えたい
- そろそろ治療を止めた方が・・・と思い、迷っている
- その他・・・なんだか気持ちがすっきりしない、等



## ♥️ どうぞお気軽にご利用ください。

相談してみてもいいなと思う方は、看護師、受付スタッフに声をかけてください

〔料金：一回一時間を目安に1,370円（体外受精の方は無料）〕

心理士相談……火、金、土曜日（予約制）	看護師又は受付に
何でも相談……随時、主に土曜日 午後（予約制）	申し出て下さい。
院長相談……月、水、金 夕方（予約制）	
外来相談……随時、外来の相談係り	

## 🚢 受付より 🚢

紫陽花のきれいな季節になりました。

さて、2007, 4, 1～2008, 3, 31 まで当院を通して不妊治療助成金が交付された金額が集計されましたので受付より報告いたします。

記号		人数	申請回数	助成金
1	大 分 県	103	165	14,660,169
2	大 分 市	240	362	53,809,942
3	他 県	14	19	1,815,434
4	県と市両方	39	47	9,393,021
5	大分市以外	2	2	110,352
合計		398	595	79,788,918

前年度より、大分市の不妊治療費の助成金額が改正されました。1年度に2回を限度とします。（人工授精・男性不妊治療は従来どおり）助成金額は、1回目が不妊治療に要した医療保険適用外治療費10万円以下の場合は全額、10万円を超える場合は、10万円を超える額の2分の1に10万円を加算した額とし、20万円を限度とします。2回目は10万円が限度となります。大分県も助成金額上限10万で2回まで申請できます。詳しくは、各機関へお問い合わせ下さい。当院では、引き続き助成金制度の向上と保険適応に向けて署名活動等に力を入れています。安心して不妊症の治療を受けられるよう行動を起こしましょう！早め早めの申請をお勧めします。



## 情報処理室より

### ご存知ですか？

セント・ルカ産婦人科のホームページではたくさんのコンテンツを用意しています。

あまり表に出る事の無い情報処理室のスタッフがHP作成ソフトの説明書とにらめっこしながら「ちまちま」と手作り（手打ち？）で作成しています。

アドレス→ <http://www.st-luke.jp/>

携帯サイトはコチラ

<http://www.st-luke.jp/imode.htm>

2次元バーコードはコチラ →



### ◆コンテンツ紹介（一部抜粋）

- 院長より…院長が毎年作成する年報のために書いた巻頭言や院長の略歴等を掲載しています。
- Clinic…診察時の注意点や休診情報、費用や講座のお知らせなど、患者さんのお役立ち情報がたくさん掲載されています。
- 治療内容…当院の治療内容を紹介しています。
- 外来成績…外来に掲示している、毎月の妊娠確認表や毎年作成している年報などを見ることができます。
- 保険適用…当院が行っている保険適用の活動について掲載しています。
- Message…当院では様々な方法で患者さんからのご意見をいただいています。その中から、患者さんへのメッセージを掲載しています。必見ですよ！

業務の状況に応じて、更新が遅れる事もありますが、患者さんにご迷惑をおかけしないよう、新しい情報を掲載していきたいと思えます。是非ご活用ください。

## 第6回目の防災訓練を行いました!!

ルカスタッフ総出で防災訓練を行いました。  
厨房からの出火を想定しての訓練スタート。  
スタッフが患者役となり、本番さながらの  
ピリピリとした空気の中、  
無事患者も搬送でき終了しました。



次回は8月を  
予定しています





## 2008年 前期を振り返って

<p>01.10 新年会 (セント・ルカ多目的ホール) 01.12 第29回 新患教室 参加者67名 参加 (佐藤晶、岡田、深田、後藤裕、河野、足立直、指山)</p> <p>01.15 第106回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 01.19 第129回 体外受精教室 参加者26名 参加 (井澤、桑野、三重野、斉高)</p> <p>01.26 第2回 第5期オリブの会 参加者7名 01.26 第5回 日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会 (東京) 参加 (院長) 01.29 釘宮啓大分市長を囲んでの電馬会 (大分市) 参加 (院長) 01.31 日本学術会議主催公開講演会「生殖補助医療のいまー社会的合意を求めて」(東京) 参加 (院長)</p> <p>02.01 職員健康診断開始 02.02 JA 北海道厚生連札幌厚生病院 (北海道) 三國雅人先生 施設見学のためご来院 02.03 第5回 日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会 (東京) 参加 (門屋) 教育セミナー「不妊治療における統合医療の意義」座長: 院長 教育セミナー講演: 「生殖心理カウンセリングの現状と課題点」(上野桂子) 発表: 「不妊治療中に流産となった患者への面接調査」(越光直子)</p> <p>02.09 第30回 新患教室 参加者70名 参加 (岡田、深田、後藤裕、河野、指山)</p> <p>02.09 第6回 第3期・第4期合同オリブの会 参加者7名 02.12 第107回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 02.16 第34回 ガーネットサークル OG 1名、参加者8名 02.16 第5回 2007年度 (第1期) 不妊相談士養成講座 (東京) 参加 (城戸、後藤裕、門屋)</p> <p>02.16 第11回 胎児遺伝子診断研究会 (長崎) 参加 (佐藤晶、院長) 発表: 「当院の着床前診断への取り組み」(大津英子) 大分市医師会立 アルメイダ病院内覧会 参加 (山路、工藤由、足立小、越名、酒井、関、越光、篠田、指山、院長)</p> <p>02.19 防災訓練 02.23 第130回 体外受精教室 参加者55名 参加 (佐藤久、井澤、桑野、斉高) 02.23 第3回 第5期オリブの会 参加者9名 02.24 日本受精着床学会 第4回 ART 生涯研修コース (東京) 参加 (佐藤晶、城戸、河邊、院長) 02.26 第95回 大分県周産期研究会 参加 (山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、足立小、越名、佐藤千、後藤香、熊迫、長木、大津、岡田、深田、井澤、桑野、後藤裕、三重野、足立直、松元、赤嶺、斉高、原井、指山、上野、西井 (札幌厚生病院より研修中)) 発表: 「生殖補助医療の現状について」(院長) 「不妊治療中に流産となった患者への面接調査」(越光直子)</p> <p>02.29 「悪性腫瘍未妊女性患者における卵子採取、ならびに凍結保存の臨床研究」 発表: 「A-PART 日本支部における悪性腫瘍未妊女性患者からの卵子採取凍結保存に対する取組と現状」(院長)</p> <p>03.01 第22回 JISART 理事会 (東京) 参加 (院長) 03.02 JISART 施設認定審査 審査員 (門屋) オブザーバー参加 (院長 (JISART-RTAC 審査委員長))</p> <p>03.09 JISART 施設認定審査 審査員 (上野、院長) 03.09 JISART 施設認定審査 審査員 (大津) 03.10 高度生殖医療技術研究所 (群馬) 所長 荒木康久先生ご来院、ご指導 03.15 第131回 体外受精教室 参加者43名 参加 (桑野、三重野、斉高) 03.16 第3回 レーザーリプロダクション学会 (東京) 参加 (院長) 03.16 JISART 施設認定審査 審査員 (上野) 03.18 第108回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 03.18 診療報酬点数表改正に向けての説明会 参加 (足立小、越名) 03.22 第33回 「赤ちゃん〜今ならきつと授かる〜」講座 (大分・トキハ会館) 参加者84名 講師 (指山 (看護師長)、上野 (臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生) 参加 (佐土原、越名、熊迫、岡田、河野、足立直)</p> <p>03.26 矢野産婦人科 (愛媛) SarahBase デモンストレーション (工藤由) 03.29 第4回 第5期オリブの会 参加者6名 03.30 第3回 日本生殖再生医学会・学術集会 (東京) シンポジウム「着床に関する理論と実践」座長: 院長 ポスター発表: 「ART 後の流産絨毛におけるゲノムインプリント遺伝子の解析」(佐藤晶子) 「走査型電気化学顕微鏡を用いたヒト胚の呼吸量測定の臨床的有用性」(後藤香里) 「割球大小不同を考慮にいたした着床前診断」(大津英子)</p> <p>04.03 セント・ルカ産婦人科&amp;メディテック・ルカ合同お花見 (大分・平和市民公園) 04.08 第109回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 04.11 泉立広島病院 (広島) 統計解析指導 (山路、工藤由) 04.12 第31回 新患教室 参加者69名 参加 (深田、後藤裕、足立直、指山) 04.12 第7回 第3期・第4期合同オリブの会 参加者3名 04.13 第60回 日本産科婦人科学会 (神奈川) 参加 (院長) 04.15 心筋麻酔法 (AED・担架設置に伴う) 勉強会 04.18 第27回 大分市医師会産婦人科〜内分秘・不妊・代謝〜懇話会 参加 (山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、足立小、佐藤千、大津、岡田、深田、井澤、後藤裕、松元、斉高、赤嶺、篠田、門屋、指山、上野、河邊、院長) 「病態から見た黄体機能不全」 (山口大学大学院医学系研究科 産科婦人科学教授 杉野法広先生)</p> <p>04.19 第132回 体外受精教室 参加者47名 参加 (井澤、岡田、斉高) 04.19 京野アートクリニック開院記念 IVF / IMSI セミナー&amp;ワークショップ (宮城) 参加 (小池、城戸) 04.20 JISART 施設認定審査 04.20 第7回 生殖補助医療胚培養士資格認定制度資格審査発表 合格 (佐藤久)</p>	<p>04.26 第4回 福岡産婦人科内視鏡手術懇話会 (福岡) 参加 (三重野、越光) 発表: 「不妊症患者における膀胱鏡検査前後の心理」(河野桂子) 「不妊症における子宮筋腫切除術後2nd-look laparoscopy の意義」(院長)</p> <p>04.26 第5回 第5期オリブの会 参加者3名 04.27 第65回 日本生殖医学会九州支部会 (福岡) 参加 (河野、院長) 一般演題「心理と看護」座長: (上野桂子) 発表: 「ART 後の流産産物におけるゲノムインプリント遺伝子の解析」(佐藤晶子) 「走査型電気化学顕微鏡 (SECM) を用いたヒト胚の呼吸量測定の臨床的有用性」(熊迫陽子) 「当院における体外受精教室の現状―教室前後の質問紙調査から―」(三重野直美) (越光直子)</p> <p>05.02 矢野産婦人科 (愛媛) 開院式 参加 (院長) 05.10 第32回 新患教室 参加者65名 参加 (深田、後藤裕、河野、足立直、指山) 05.17 第49回 日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会 (名古屋) 参加 (院長) ランチョンセミナー 座長: 院長 発表: 「ART 後の流産におけるゲノムインプリント解析」(佐藤晶子) 「走査型電気化学顕微鏡を用いたヒト胚の呼吸量測定の臨床的有用性」(熊迫陽子)</p> <p>05.17 第49回 日本哺乳動物卵子学会 (愛知) SarahBase プース展示 (山路、工藤由) 05.17 第6回 日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会 (名古屋) 参加 (院長) 05.20 ISO9001 マネジメントレビュー 05.22 金沢医科大学産科産期医学 (石川) 富澤英樹先生研究のためご来院 05.24 第133回 体外受精教室 05.24 第35回 ガーネットサークル 05.31 第6回 第5期オリブの会</p> <p>06.01 第15回 セント・ルカセミナー 講師 東口篤司先生 (KKR 札幌医療センター斗南病院産内分秘科 科長) 「着床率の改善のために」 1) もうD&amp;C (掻爬手術) はやめよう。 2) もっとホルモン補充周期を用いた凍結胚移植を 3) 子宮中隔、Asherman 症候群の手術における術中子宮腔造影と IUD の工夫」 講師 久保田健夫先生 「山梨大学大学院医学工学総合研究部環境遺伝学講座 教授」 「エビジェネティクスと疾患」 「～周産期環境によるエビジェネティクス変化の可能性～」 講師 有馬隆博先生 (東北大学未来医学治療開発センター 准教授) 「ART をめぐる遺伝学的問題点への解明〜特に男性不妊とエビジェネティクス」 講師 荒木康久先生 (高度生殖医療技術研究所 所長) 「見直してみたい体外受精のラボ業務」 「～あなたの技術に一つ工夫してみたらどうでしょう?～」 講師 森崇英先生 (醒睡選辺クリニック 不妊センター長、京都大学名誉教授) 「卵巣閉鎖のホルモン調節」 講師 石井慶子先生 「NPO 法人 Fine ～現在・過去・未来の不妊体験を支援する会～」 「不妊と向き合うために必要な力～Fine ピア・カウンセラーの活動から」</p> <p>06.07 JISART 教育セミナー (東京) 参加 (工藤由、越名、熊迫、大津、篠田、門屋) 06.07 第23回 JISART 理事会 (東京) 参加 (院長) 06.08 第6回 JISART シンポジウム (東京) 参加 (工藤由、越名、熊迫、大津、篠田、門屋、指山、上野) 会長講演: 「JISART のいち会員として」(院長) シンポジウム「妊娠困難例 (高齢患者に対して) に対してこうしている」座長: (院長)</p> <p>06.11 大分県立看護科学大学講義 講義: 「不妊症講座」(院長) 06.14 第8回 第3期・第4期合同オリブの会 06.21 第34回 「赤ちゃん〜今ならきつと授かる〜」講座 (大分・トキハ会館) 講師 (指山 (看護師長)、上野 (臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生)</p> <p>06.28 第48回 日本先天異常学会学術集会 (東京) 参加 (城戸、大津、院長)</p>
--	---

### 妊娠報告件数

(2007.12.1~2008.4.30)

体外受精、顕微授精等

**83件**

\*

その他(体外受精以外)

**83件**

**計 166件**

### 編集後記

セント・ルカに勤めて8年目の研究室の佐藤です。私事ですが、8月で退職させていただくことになりました。7年の月日はあっという間に流れ、ご指導いただいた院長先生、諸先輩方には感謝でいっぱいです。特に患者さん方の治療に関わることは大変責任ある仕事ですが、とてもやりがいを感じることができました。この経験は私にとって非常に貴重なものとなりました。最後になりましたが、みなさんのご多幸をお祈り申し上げます。(C.S)



平治岳山頂にて(楽しかった登山の思い出)



**JISART**  
Japanese Institution for Standardizing  
Assisted Reproductive Technology

発行: 医療法人セント・ルカ産婦人科/セント・ルカ生殖医療研究所  
〒870-0947 大分市津守富岡5組 ☎097-568-6060 ☎097-568-6299  
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.st-luke.jp/  
携帯サイト http://www.st-luke.jp/imode.htm